国家基本問題研究所　第1回「寺田真理記念・日本研究賞」に4氏

外国人による「日本研究」奨励　来月上旬に授賞式と記念講演

防衛、憲法、日米関係など、日本が直面するさまざまな問題に向き合い、日本再生のための提言を続けている民間シンクタンク公益財団法人「国家基本問題研究所」（櫻井よしこ理事長、**写真上**）は、日本への理解増進のため内外の優れた日本関係研究を顕彰・奨励する「国基研『寺田真理記念・日本研究賞』」を創設し、第1回の受賞者4人を選んだ。

日本研究賞には、カトリックが近代日本の文化、社会に与えた影響などの研究論文を発表した、ケビン・ドーク（米国）・米ジョージタウン大教授を選出。同特別賞には、知日派文人、周作人に関する研究書を著した劉岸偉（中国）・東京工業大教授を選んだ。

また、同奨励賞には、ブランドン・パーマー（米国）・米コースタル・カロライナ大准教授とワシーリー・モロジャコフ（ロシア）・拓殖大教授の2人を選出した。

寺田真理記念・日本研究賞は、国基研の活動に共鳴する寺田真理氏からの100万^{ドル}の寄付を原資に創設された。受賞資格者は原則、若手か中堅の外国人の日本研究者で、対象作品は、ここ5年の間に刊行されたもの。日本研究賞と同特別賞には各1万^{ドル}、奨励賞には各5千^{ドル}の賞金が贈られる。

賞の創設について、櫻井理事長は「海外における日本に対する、歪曲（わいきょく）された理解、誤解を解いていかなければいけません。そのためには、真の意味での知日家を育てていく必要があると思います。世界の中では、日本のことを何も知らず、また理解することなく、ただ通説によって日本を批判するという論調があまりにも多すぎます。これを正していく必要があるということを私たちは念頭においていました。そのために、日本研究を奨励し、日本を研究する若手の人たちを育てたいという思いがあり、それを促す水先案内人になることができれば最高にうれしいと思います」とコメント。

副理事長の田久保忠衛・杏林大名誉教授＝**同下**＝は「今は一滴かもしれませんが、この賞を長く続けることによって、大変大きな流れになると思います。単に賞を与えるだけでなく、こういう研究者がこういう理由で受賞したということを内外に知らせないといけません。それが、日本研究賞の大きな意義です」と語った。

●来月9日に記念講演会

第1回国基研「寺田真理記念・日本研究賞」受賞者（日本研究賞・ケビン・ドーク氏、日本研究特別賞・劉岸偉氏）による記念講演会を開きます。司会は櫻井よしこ氏。

日時　7月9日(水)午後6時半～8時半（開場午後5時）

場所　大手町サンケイプラザ4階（東京都千代田区大手町1の7の2）

会費　2000円（一般）、1000円（国基研会員）。当日会場でのお申し込みはできません。

申し込み方法　【講演会参加希望】と明記の上、氏名（国基研会員は会員番号も記入）、郵便番号、住所、電話番号を記載し、はがきもしくはFAXでお申し込みください。参加券を発送いたします。定員（400人）に達し次第締め切ります。6月27日(金)必着。

〒102―0093　東京都千代田区平河町2の8の10　平河町宮川ビル3階　国家基本問題研究所　FAX03・3222・7821。

日本研究賞

米ジョージタウン大教授
ケビン・ドーク氏

日本の健全な「国民主義」

ケビン・ドーク氏は米ジョージタウン大学教授で、近代日本のナショナリズムや政治・社会・文化思想の研究家。その著書『A History of Nationalism in Modern Japan』（PHP研究所＝大声で歌え「君が代」を）をはじめ重要な学術論文、そして日本での言論活動が評価され受賞した。戦前から戦後にかけての日本の代表的法学者、田中耕太郎（元東京帝国大学教授、文相、最高裁判所長官、国際司法裁判所判事）の研究に力を入れ田中が昭和初期に提唱した「世界法」の概念の今日的意義を説く論文や、田中の自然法理論を基に日本のナショナリズムを再考する論文を発表している。また、近代日本の政治と宗教の関係を考察した論文では、明治期から昭和の戦中期にかけての日本が神道の祭祀（さいし）王である天皇を統治者としながら、カトリックを含む信教の自由を憲法で保障しており、神道に支配される国家ではなかったことを論証した。さらに膨大な日本語の文献資料を駆使したナショナリズム研究では、民族的同一性を重視する「民族主義」と、国民の連帯感に基づく「国民主義」、さらには国家を全てに優先させる「国家主義」を峻別（しゅんべつ）し、米国の一部マスコミからしばしば危険視される安倍晋三首相の靖国神社参拝問題やナショナリズムについて、健全な国民主義であるとの肯定的評価を下し、積極的発言をしている。櫻井理事長は世界的で民主的な日本であることを発表されたことに感謝したいと述べている。

〈**受賞の言葉**〉「寺田真理記念・日本研究賞」の初受賞者となり大変光栄です。私が調査研究して描こうとしたことに日本の読者の共感をある程度いただけたのではないか―それは日本研究をする外国人学者にとっての最高の称賛であると思います。

1960年生まれ。82年米国クインシー大学卒。シカゴ大学で日本研究により博士号取得。イリノイ大学准教授などを経て、現職。日本の京大、東大、立教大、甲南大などで学ぶ。著書に「日本浪曼派とナショナリズム」（柏書房）などがある。

特別賞

東京工業大学外国語研究教育センター教授　**劉岸偉氏**

類いまれな日中精神文化史

劉岸偉氏の著書『周作人伝―ある知日派文人の精神史』（ミネルヴァ書房）は、史実や出典の裏付けが精査され、総合的な学術研究ともいえ、それ自体が一個の芸術作品と化している。

話は具象的で日本語文章はいきいきと躍動し、単なる精神史以上の一個の教養小説の趣さえ備えている。

同作は一面では近代中国のインテレクチュアル・ヒストリーだが、周作人という類いまれなる人が見た日本論・日本文学論として同時代の日中両国を同じカメラのアングルのなかに捉え、双方ともダイナミックに描かれている。同作は戦後来日した中国人留学生が生み出した最高傑作の一つであるといえる。将来、多くの中国人が19世紀末以降の日中関係史を解き明かす、大著を読むことが期待される、と推薦委員の平川祐弘東京大学名誉教授は述べている。

〈**受賞の言葉**〉かつて中国人の日本研究の遅れを一喝した戴季陶先生の批判を忘れず、時勢に流されることなく、しっかりと自分の目と足で研究活動を続け、東工大・北京清華大との合同養成プログラムにも参画し、未来を担う両国の英才の教育に微力を尽くしていきたい。来日して30年、いつかこの生活者としての体験をふまえて、小泉八雲の『日本―一つの解明』のごとき著書が書けたらいいと空想しています。

1957年生まれ、専攻は、比較文学、比較文化史。北京外国語大学卒業後、北京大学大学院東方言語文学系を経て82年来日。東京大学大学院総合文化研究科比較文学・比較文化専攻博士課程修了、学術博士。札幌大学助教授を経て、現在は東京工業大学外国語研究教育センター教授。著作は『東洋人の悲哀―周作人と日本』（河出書房新社）、『小泉八雲と近代中国』（岩波書店）など。

奨励賞

米コースタル・カロライナ大准教授
ブランドン・パーマー氏

韓国の民族主義史観覆す

ブランドン・パーマー氏は著書『日本の朝鮮統治を検証する1910～1945』（草思社）、『Fighting for the Enemy: Koreans in Japan's War,1937～1945』（米ワシントン大学プレス＝日本の戦争と朝鮮人、敵のために戦って）』（邦訳なし）で、戦時中の日本による朝鮮人動員の実態を研究し、日本は絶対的権力をもって朝鮮人を強制的に軍務や労務に就かせ、搾取し、犠牲にしたという韓国の「民族主義史観」が主張するほど実態は単純ではなかったことを立証した。

パーマー氏が韓国の民族主義史観を覆し、世界中に情報を発信できる英語の書物で研究成果を発表した点が評価できる。

〈**受賞の言葉**〉大変恐縮しております。この受賞によって、日本の朝鮮半島の統治についての通説を書き改める私の試みをさらに深めたいと思います。

1970年生まれ。97年ブリガム・ヤング大学で修士号取得（国際関係論）、2005年ハワイ大学で博士号取得（朝鮮史）。研究テーマは、日本の朝鮮統治、特に朝鮮人の戦時動員。

拓殖大学日本文化研究所教授
ワシーリー・モロジャコフ氏

日露比較文化論に新視点

ワシーリー・モロジャコフ氏の近著『ジャポニズムのロシア　知られざる日露文化関係史』（藤原書店）は、氏の日本研究の奥深さと独創性を示した好著。数多（あまた）ある日露比較文化論の中でも出色の論攷（ろんこう）といえる。

ロシア人の日本文化理解に関する克明な検証、日本文化研究、日露比較文化論に新たな視点を提供している。

同氏は現在、拓殖大学日本文化研究所教授として活躍しているが、中でも、拓殖大学とロシア科学アカデミー東洋学研究所などとの間で進められている日本の台湾統治に関する共同研究プロジェクトにおいても主要メンバーとしてリードしており、研究成果が期待される。

〈**受賞の言葉**〉『ジャポニズムのロシア』というこの本は、主に日露友好、相互理解、文化交流の物語です。今後も、日露関係史の研究を続けて、日露文化交流のためにもっと努力したいと思います。

1968年生まれ。93年モスクワ国立大学付属アジア・アフリカ諸国大学卒。東京大学社会科学研究所客員研究員などを経て、拓殖大学日本文化研究所教授、ロシア科学アカデミー東洋学研究所客員研究員。

候補作品推薦委員

伊藤隆東京大学名誉教授、平川祐弘東京大学名誉教授、渡辺利夫拓殖大学総長、ジョージ・アキタ・ハワイ大学名誉教授、ブラーマ・チェラニー・インド政策研究センター教授、許世楷津田塾大学名誉教授、ヘンリー・ストークス元ニューヨーク・タイムズ紙東京支局長